

# 平成26年度 燕・西蒲生活科部 活動報告

部長 石井 正文

## 1 研究主題 「子どもの思いを大切にした生活科授業の工夫」

### 2 研究の概要

(1) 第1回 部会 平成26年6月4日(水) (会場:燕市立燕南小学校 参加13名)

実習研修「夏野菜のテリーヌ風づくり」

指導者:燕市立吉田小学校

加藤 聡教諭

燕市・弥彦科学教育センター 井上 忍専任所員

#### ① 内容

指導者から、生活科で収穫した夏野菜を使った「夏野菜のテリーヌ風」の作り方を紹介していただき、実際に作った。キュウリやトマト、茹でたオクラ等を1cm角に切り、プリンカップに入れ、ゼラチンを溶かしたコンソメスープを注いで冷やして固めて完成させた。



#### ② 成果

収穫した野菜をほぼそのまま使い、児童が包丁で切るだけで安全で簡単に作ることができる。夏野菜の味がそのまま楽しめ、畑の栽培でお世話になった方々にお礼の会食等のメニューとして利用できるものであった。また、栽培して食べるだけでなく、花や萼、種に着目させることで、野菜の分類や生長の観察など理科的な見方を育てる活動も可能であることを指導していただいた。

(2) 第2回 部会 平成26年12月3日(水) (会場:燕市立分水北小学校 参加13名)

授業研究「いっしょがいいね」

授業者:燕市立分水北小学校 落合 正美教諭

指導者:中越教育事務所 学校支援第2課

山岸 一郎指導主事

#### ① 授業の概要 (6時間目/12時間)

家庭生活を支える家族や自分を振り返り、自分の役割を考えて果たそうとする単元である。本時では、自分が体験した仕事を発表し合い、家族の気持ちを考え、次の「家族にこにこ大作戦」につなげることがねらいであった。洗濯物を干したり茶碗を洗ったりしたことを、班の友達に笑顔で伝えたり、ワークシートに丁寧な字で気持ちを書いたりして、意欲的に活動する児童の姿が見られた授業展開であった。



#### ② 成果

「グループや学級の話し合いは、子どもたちの思いをふくらませることに有効であったか」「家族の気持ちを考えることは、こにこ大作戦を意欲的にすることに有効であったか」の2点について協議した。スポンジやお椀などの実物を見せたこと、黒板いっぱい気持ちを掲示したことがとくに効果的であった。3つの自立(学習上の自立、生活上の自立、精神的な自立)を実現するために、何をどう具体化するかを各学校で明確にすることについて指導をいただいた。

### 3 成果と課題

数年間、実技研修と授業研究の2本立てで研修会を継続している。実技研修では会員の要望に応じて調理実習を行い、育ててきた野菜を会食等に活用することができた。

また、授業研究では、指導者から生活科のねらいを踏まえた授業構想について貴重な指導をいただき、今後の指導の参考にすることができた。

次年度も会員のニーズに応えるとともに、児童の自立を促す生活科の授業力を高める研修を実施したい。